

# II 環境施設更新事業

# 1 新環境施設 (1)新環境施設の特徴

## ① 発電の実施

- ・小規模施設（71 t /24 h）でありながら、高温高圧（4MPa、400°C）の蒸気条件で高い発電効率（17%）を達成（発電出力：1400KW）
- ・タービン排熱を利用し、付帯施設の温水プールへの熱供給（熱利用1.5%）

**エネルギー回収率（18.5%） = 発電効率（17.0%） + 熱利用率（1.5%）**

## ② 環境への配慮

新環境センターは最先端の技術を導入し、排ガスについては法規制値より、さらに厳しい自主規制値を設け、地域の環境保全に最大限配慮します。

（ダイオキシンの例）

排ガス 基準値	項目	自主規制値		法規制値
		新環境センター	現環境センター	
	ダイオキシン類	0.05ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	1ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	5ng-TEQ/m <sup>3</sup> N

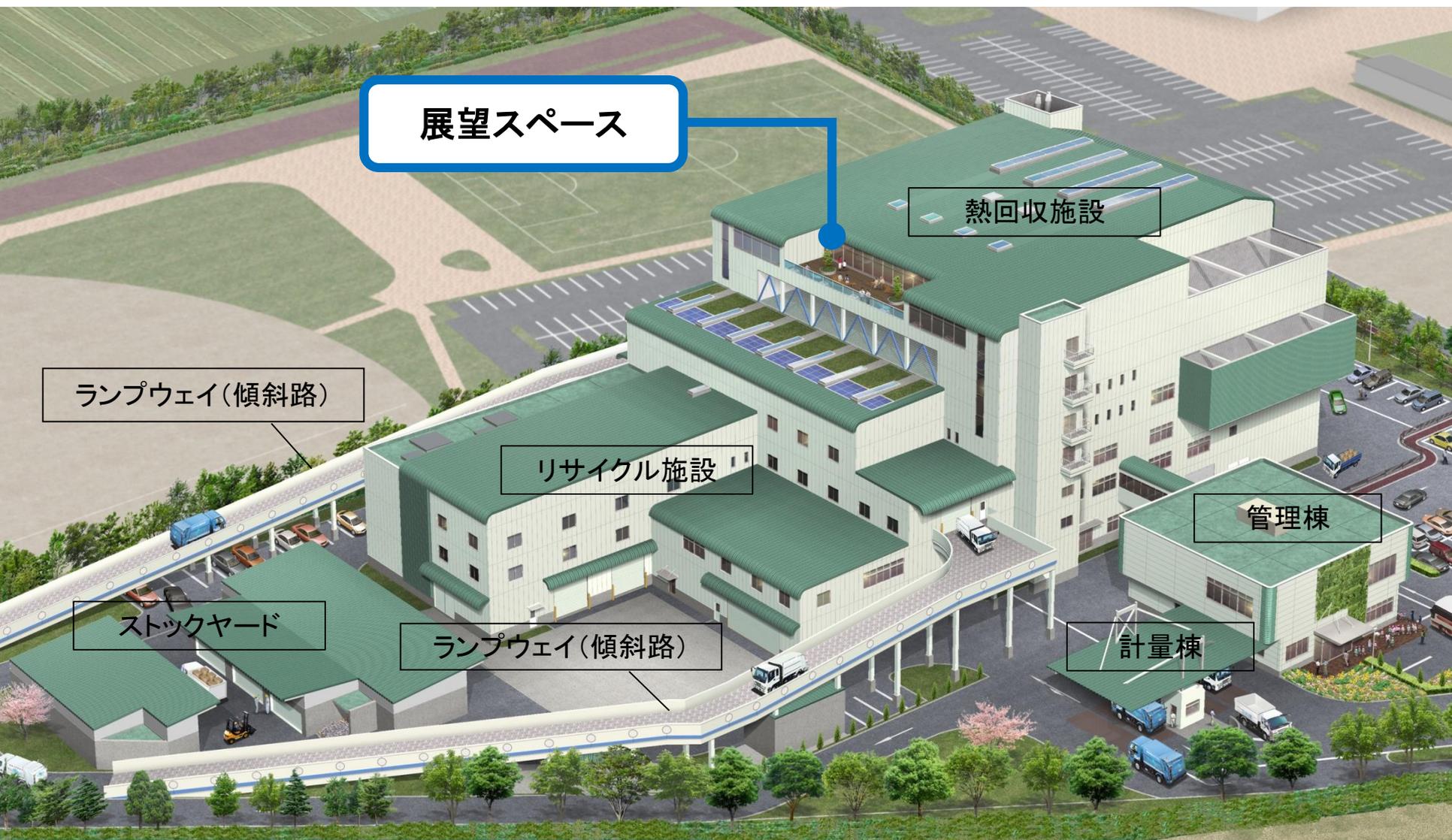
※新自主規制値は法規制値の100分の1

## ③ 新施設稼働に伴うごみ分別方法の見直し

「トレイ類」については、「焼却ごみ」の区分とし、焼却の際に発生する熱エネルギーを利用する、サーマルリサイクルに取り組みます。

担当：環境施設対策課

# 鳥瞰図（南西視点）



展望スペース

熱回収施設

ランプウェイ(傾斜路)

リサイクル施設

管理棟

ストックヤード

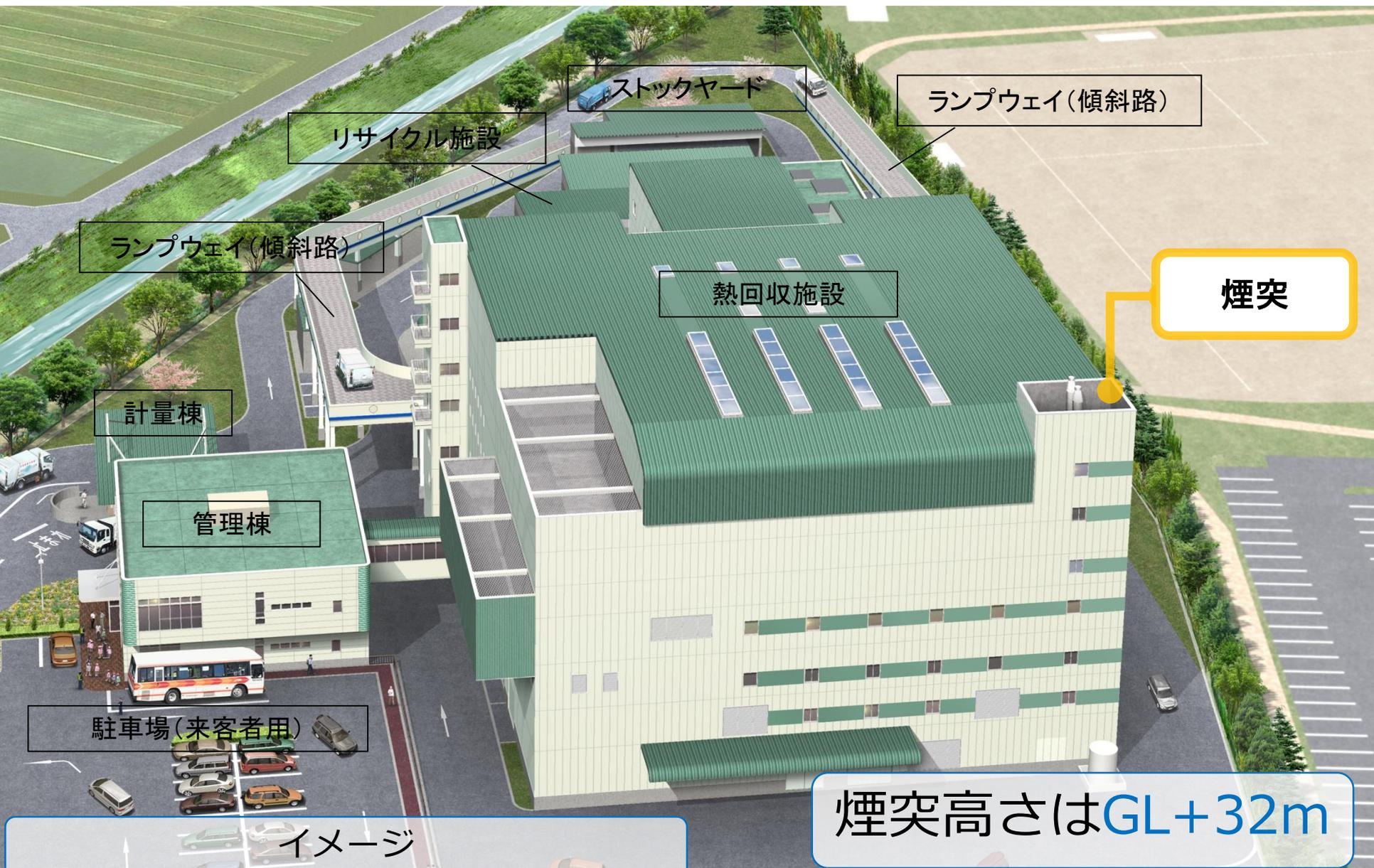
ランプウェイ(傾斜路)

計量棟

イメージ

担当：環境施設対策課

# 鳥瞰図 (南東視点)



ストックヤード

ランプウェイ(傾斜路)

リサイクル施設

ランプウェイ(傾斜路)

熱回収施設

煙突

計量棟

管理棟

駐車場(来客者用)

煙突高さはGL+32m

イメージ



# 工事の状況写真(その1)

地盤改良工事



ケーシング打設工事 (270ヶ所)



杭打設工事 (270ヶ所)



杭頭補強工事

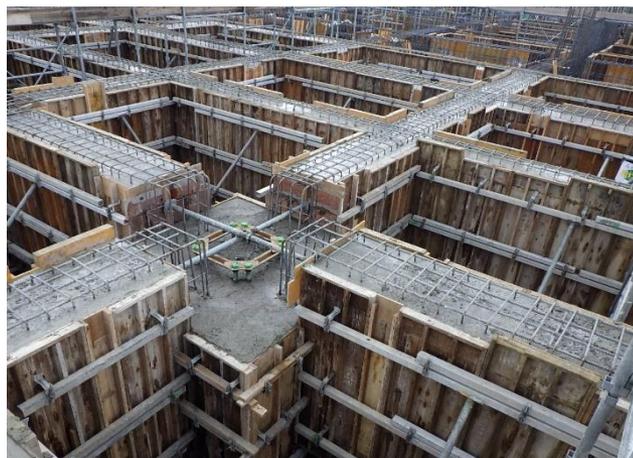


# 工事の状況写真(その2)

配筋工事



型枠・コンクリート打設工事



スラブ打設工事



鉄骨建方工事



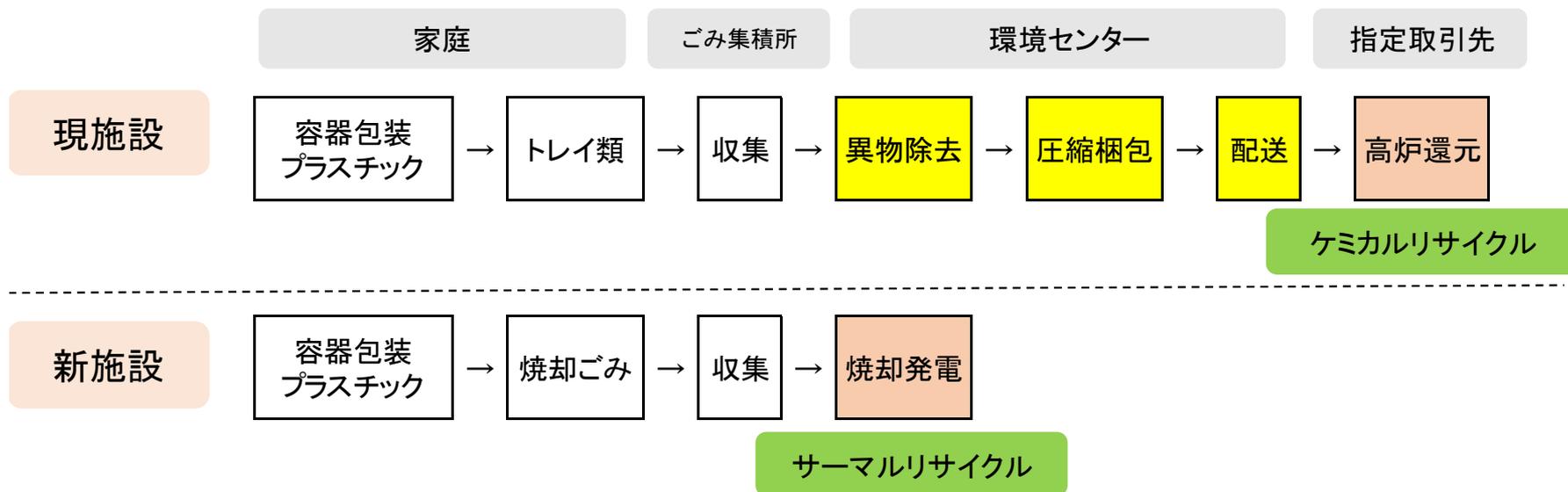
担当：環境施設対策課

## (2)ごみ分別方法の見直し〔変更1〕

新環境施設が稼働する令和3年10月から、以下の変更を行います。

### トレイ類のサーマルリサイクルによるエネルギーの有効活用

・新環境施設は、熱エネルギーを活用し、発電できる施設であることから、現在、主に遠方の施設で溶鉱炉の還元剤として利用（ケミカルリサイクル）されているトレイ類について焼却処理を行い、エネルギーの有効活用を図ってまいります。



## (2)ごみ分別方法の見直し〔変更2〕

- ・トレイ類と破碎ごみの一部を焼却ごみとします。
- ・モラルハザードが生じないようにプラスチック等の複合品は、破碎ごみのその他として丁寧に周知します。
- ・焼却ごみの収集回数は2回を維持し、破碎ごみは月1回とします。

新分別	収集回数	品目		現行区分	収集回数
焼却ごみ	週2回	生ごみ、紙くず(紙)、木質ごみ、草	料理くず、紙くず、紙コップ、紙おむつ、小さな木製品、板、棒、草など	焼却ごみ	週2回
		容器包装プラスチック(プラマークが入ったもの)	カップ類、ボトル類、レジ袋、ポリ袋類、網・ネット類、緩衝材など	トレイ類	週1回
		プラスチック類	カップ、サランラップ、シャープペンシル、ストロー、歯ブラシ、ビデオテープ、レジャーシート、ビデオテープ、CD・DVD、CD・DVDケースなど	破碎ごみ	2週に1回
		ゴム・皮革製品、繊維類	靴、カバン、ホース、まくら、下着など		
破碎ごみ	月1回	家電類(家電4品目除く)	アイロン、カセットデッキ、ゲーム機、時計、ドライヤー、扇風機、ビデオデッキ、ホットプレートなど	破碎ごみ	2週に1回
		小型金属類	アタッシュケース、一斗缶、鍋、蒸し器、フライパン、やかんなど		
		陶磁器、ガラス類	板ガラス、ガラス食器、花瓶、皿、土鍋、茶碗、湯のみなど		
		その他※	電気・電池類を使用するおもちゃ、安全靴、カバン(金属を含む)、スケートシューズ、ベルト、ランドセル、ローラースケートなど		

担当：ごみ減量推進課

## (3)今後のスケジュール

- 令和2年3月 新たな分別やごみ減量策を定めた一般廃棄物（ごみ）処理基本計画  
（以下：計画）案作成
- 4月 計画案パブリックコメント実施
- 7月 計画完成
- 9月 新分別のごみ袋の手数料および現行のごみ袋の取扱い方針決定
- 10月 自治会を通じたの説明会開始  
全戸へ新分別やごみ袋の取扱いに関するPRパンフレット配布
- 令和3年8月 ごみカレンダー配布（令和3年10月～令和4年3月末分）
- 9月 広報や広報車で直前広報の実施
- 10月 新分別開始

## 2 交流拠点施設 (1)施設概要 (整備イメージ図)

「環境」・「健康」・「交流」をはぐくむ活動拠点

交流拠点施設・屋外施設の整備

- ・交流拠点施設  
R 3.4月オープン
- ・屋外施設  
工事：R 2～R 7



担当：施設整備室



## (2)施設の運営

### ① 健康増進ゾーン、交流拠点ゾーン (公募による指定管理)

実施場所	事業等
プール	① 未就学児、児童、成人等、幅広い世代を対象とした水泳教室、健康指導の実施 ② 地元中学校への水泳指導 ③ ウォーキングレーン、キッズレーン等の運営を通じて、利用者のニーズにあわせた事業展開を図る。
トレーニングエリア	トレーニングマシンを活用した事業
多目的ホール	① 貸館事業の実施 ② 市民交流活動の支援
温浴施設	温浴施設の運営を通じて、様々な世代が交流を深める場としての活用を図る。

## (2)施設の運営 (続き)

### ② 環境学習ゾーン (直営、一部委託)

実施場所	事業等
環境学習室	座学講座 ・守山市と野洲川の歴史 ・琵琶湖に棲む生き物講座 ・守山市民環境大学等
工作室	工作講座 ・廃材木を活用した木工教室 ・琵琶湖の土を活用した陶芸教室等
キッチン	①エコレシピ <sup>o</sup> 等料理教室 ②軽食提供
交流・学習スペース	①環境学習図書および健康スポーツ図書の整備 ②環境学習パネル展示 ③環境に関する水槽展示

## (3)交流拠点施設への交通アクセス対策

### ① 市民ニーズを踏まえた交通手段確保の検討

交通手段確保に向け、ビッグレイク・ライン再編による小浜線・服部線の充実について関係機関と鋭意検討を図る。

### ② 「モーリーカー」のさらなる利便性向上

環境学習都市宣言記念公園へのモーリーカーでの移動については、現行制度に応じて全世代が利用可能とすることとし、周知徹底を図る。

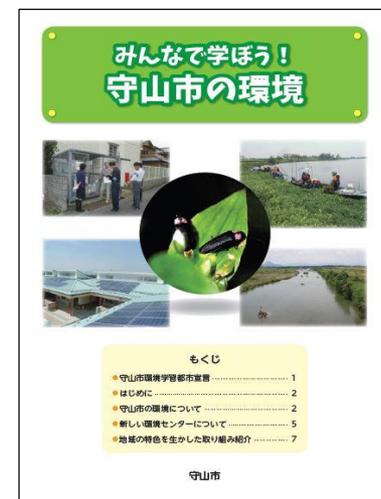
### ③ 公共交通への親近感を高める取組みの実施

夏休みにおける小中学生の路線バス活用による施設の無料・低額利用に関する検討を図る。

# 3 環境学習都市宣言の具現化に向けて

## 1 環境学習の取組

古くから琵琶湖と野洲川の恵みに支えられ、美しい田園風景が広がり長年の市民による環境保全の取組がある自然豊かな守山らしさ溢れる環境を次世代に引き継いでいけるよう、市民一人ひとりが守山の環境について、さらに理解を深めるとともに、学び、考え、行動することを目的に宣言を制定しました。



### (1) 環境学習訪問講座の実施

琵琶湖で起きている環境問題やごみの実態を鳥や魚、真珠など子どもたちが興味を持つ内容を織り交ぜながら、環境について楽しく学ぶことができる講座を実施しました。

実施場所	各教室等
対 象	市内小学生・中学生
授業回数	43回
受講者数	1,117名



担当：環境政策課

# 1 環境学習の取組(続き)

## (2) 琵琶湖の湖底ごみ除去活動

日 程 令和元年6月23日(日)

内 容 赤野井湾再生プロジェクトによる湖底ごみの除去活動

※赤野井湾再生プロジェクト

赤野井湾の再生を願う団体(自治会・漁協・環境団体等)が連携を深め、実践活動や啓発活動、提案活動等を行うことを目的として、平成24年8月に発足

参加者数 186人

参加者 市民、企業、漁協、中学生、環境団体、ボランティア、滋賀県、市

作業内容 琵琶湖内に入り、レーキを用いて湖底ごみの拾い上げ  
陸上の散在性ごみの回収、オオバナミズキンバイの除去

ごみ回収量 322.17kg (内プラスチックごみ 170.41kg)



【滋賀県によるごみの実態把握調査】

湖底ごみではプラスチックごみが多く、散在性のプラスチックごみ対策を進めることが効果的と考えられる。

担当：環境政策課

# 1 環境学習の取組(続き)

## (3) 企業と連携した調査・清掃活動

企業と連携した市内の散乱ごみの現状調査や琵琶湖岸での清掃活動、ヨシ刈りを行いました。

また、琵琶湖の環境保全等についての協定を締結しました。



企業名	実施日	内容
日本コカ・コーラ株式会社	令和元年6月27日	市内全域調査、赤野井湾清掃
(一財)セブン・イレブン財団他2団体	令和元年8月30日	琵琶湖の環境保全協定締結
株式会社伊藤園	令和2年2月9日	琵琶湖岸清掃

## (4) 環境フォーラムの開催

日程 令和元年11月3日(日)

場所 守山市民ホール 小ホール、展示室

内容 気象予報士による基調講演・科学実験

市内の小中高校生による環境学習の取組発表

環境団体の活動・小中学生の環境学習報告の展示

参加者数 約350名



担当：環境政策課